

講義名	対)19～教養特講（生涯学習力）/15～生涯学習力		
担当教員	西尾 範博		
開講期・曜日・時限	前期 月曜日 3時限	授業形態	講義
履修開始年次	1年生	単位数	2
		備考	

主題と概要

この授業では、生涯にわたって学習し続ける際に不可欠となる自己マネジメント力とリーダーシップ力を主題とする。それらは、1年次の「自己発見とキャリア開発」で自らの夢や目標を得た学生にとって、その夢や目標を実現する際に不可欠な力である。また自らの夢や目標を十分に得られていないという学生にとっては、自己のマネジメント力とリーダーシップ力について学びながら、自らの夢や目標を考え、少しでも明確にし、日常生活において実践する機会となることが期待できる。以上の過程を通じて、知識を知恵に変換し、新たな視点と豊かな発想により新しい価値を見いだす時間を提供していきたい。

到達目標

【対面授業】この科目は、「対面型」で実施します。到達目標の達成のためには、授業形態や扱う教材等の関係上、対面型での授業が望ましいからです。「オンデマンド型」ではありませんので、時間通りの到着前に指定された教室で授業に出席してください。なお、新型コロナウイルス感染症等の学校感染症への感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生には授業をLive配信する予定です。

(1) 自己のマネジメント力について理解している
(2) 自己のマネジメント力を日常生活において実践し役立てることができる
(3) 自己のリーダーシップ力について理解している
(4) 自己のリーダーシップ力を日常生活において実践し役立てることができる

提出課題

毎回の授業中に示す課題レポートの提出を予定している。

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック

毎回の授業で課されたレポートの内容を翌週の授業の冒頭で話題にし、講評や補足説明等を行う。それにより前回の授業内容を振り返る機会を提供するとともに、その日の主題に取り組み基礎となるようにする。

評価の基準

積極性、主体性などの毎回の授業に取り組み態度（60%）と、提出課題レポートの出来ばえ（40%）をもとに評価する。

履修にあたっての注意・助言他

この授業では、能動的かつ積極的な学習態度が強く求められる。その意味で、授業は、生涯学習に不可欠な二つの力を身につける実践の場にもなる。この授業に主体的に取り組み、すべての到達目標を達成するぞという意欲に満ち溢れた受講態度が期待される。

教科書	.使用しない。				

プリント資料及び参考文献

授業中に随時資料を配布し、参考文献を適宜紹介する。

授業計画

1. 生涯学習に不可欠なセルフ・マネジメントとセルフ・リーダーシップ
コントロールできることとコントロールできないこと
言葉と思考や行動と自己イメージの関係
2. セルフ・マネジメント論（美点重視、外的現実と内的現実）
3. セルフ・マネジメント論（アウトサイドインとインサイドアウト、4行日記）
4. セルフ・マネジメント論（時間管理と自己管理、4つのエース）
5. セルフ・マネジメント論（言葉と人間関係）
6. セルフ・マネジメント論（流動的思考と分析的思考）
7. セルフ・マネジメント論（パラダイムシフト、ストーリーテリング）
8. セルフ・マネジメント論の振り返りとまとめ
9. 自己の探求（自己のタイムライン）
10. 自己の探求（興味関心、価値観、能力からみた自己の探求）
11. セルフ・リーダーシップ論（目的・目標、ビジョン）
12. セルフ・リーダーシップ論（フロー体験、才能の構成要素、自己との対話、宝地図）
13. セルフ・リーダーシップ論（キャリアビジョン）
14. セルフ・リーダーシップ論の振り返りとまとめ
15. セルフ・マネジメント力とセルフ・リーダーシップ力の実践

授業形態（アクティブ・ラーニング）

ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

毎回の授業で配布される学修用教材資料を使った復習や毎回の授業で示される課題レポートの作成を通じた復習（1時間）、そして学んだことを翌週の授業までに日常生活で試行すること（3時間）を課す。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この授業は、上記の主題と概要、授業計画のもとで到達目標の達成をもって、本学のディプロマ・ポリシーである「ネアカのびのび、へこたれず」の精神を持った人材、知識を知恵に転換することができる情報収集力、情報分析力、課題発見力、構想力を持った人材、創造力（新しい視点と豊かな発想）を持った人材、自主・自立の精神を持って課題に主体的に取り組み、解決に結びつけることができる人材、仲間と協同して、物事を成し遂げることができる人材を育成することに貢献する。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

授業内容を理解するだけでなく日常生活において実践しながら学ぶということの連続となるこの授業では、毎回課されるレポートの内容を次の授業で取り上げることに加え、授業中のディスカッション、グループワークの実施を通じて、学生と教員の間での双方向性を高めながら進め、その過程で到達目標が一つずつ達成されることに努めたい。

実務経験の有無及び活用

備考

毎回の授業から多くのことを学ぼうとする意欲に加え、学んだことを自らの日常生活において実践し、役立てようとする姿勢が強く求められる。